

令和8年度 看護職員の負担軽減・処遇改善に資する体制整備計画

看護職員の勤務状況(令和8年4月1日)

病院規模:336床(許可病床数336床)
看護職員数:常勤403名(育児休暇者除く)・非常勤16.88名(常勤換算)
週平均勤務時間:週37.5時間
超過勤務時間:月平均14.98時間
平均夜勤回数:月平均3.1回

看護職員(夜勤を含む)業務負担軽減のための取り組み

各病棟へ看護補助者7～10名 配置
看護補助者研修を実施し、技術向上を計っている
各病棟へ担当薬剤師を配置している
医療DXの推進
看護部委員会の開催は業務時間内に行っている

看護職員負担軽減にかかる目標および計画

	項目	現状	2027年3月までの目標	具体的手順
1	業務量の調整による時間外労働時間の削減	時間外労働時間14.98時間/月	・14時間以下/月	・時間外労働の状況を考慮した業務量の調整のための時差勤務の調整 ・看護業務の簡素化・電子化を進める ・専門看護師、認定看護師、特定行為看護師を活用した業務量の配分調整ができる ・部署の状況、業務量に応じた応援体制の構築 ・夜勤者がわかるユニフォームの導入 ・勤務前残業の廃止
2	看護職員と多職種との業務分担	委託業者の活用と多職種連携	体制維持	・多職種によるタスクシフト・タスクシェアの推進のため、各職種と検討、調整を図る ・外来採血業務(臨床検査技師) ・入院予約説明や検査説明(入退院支援センター) ・病棟薬剤業務(薬剤師) ・中央材料滅菌業務(外部委託) ・ERにおける患者対応、検査等搬送業務(救急救命士)
3	看護補助者の配置による看護職員の負担軽減	デイケアに認知症看護認定看護師と一緒に介護福祉士2名が協働で認知症患者のケアを実践中	・高齢者ケア担当者の配置	・看護補助者の業務分担と配置の検討 ・夜勤配置による業務軽減 ・看護補助者の夜間業務の見直し(センサー類の確認業務など) ・看護補助者への業務移行の検討、改善 ・介護福祉士を中心とした看護補助者の認知症ケアへの協働時間拡大
4	妊娠中・子育て中の看護職員の負担軽減	保育園の希望者100%受入	多様な勤務形態の導入 保育園の希望者100%受入継続	・時間有給の活用 ・多様な勤務形態の導入 ・妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する夜勤の免除や勤務時間の調整 ・院内保育園の整備(夜勤預かり実施) ・夜勤明け預かり実施
5	AI・DXの活用	看護サマリAIの導入 IC記録の自動化 ICUシステムの導入 メディカルクリップの導入 インカムの導入	インカムの活用によりナースコール対応時間の短縮 会議議事録の自動作成定着	・AIサマリーの活用 ・メディカルクリップ動画の増加 ・インカムを活用したナースコール対応の推進 ・AI議事録の活用